メッセージアウトライン
創世記5:1～32「アダムからノアへ」

[1-2]「これはアダムの歴史の記録である。神は人を創造したとき、神の似姿として人を造り、男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた」
「記録」とは「トーレドース」ということばで、2:4では「経緯」と訳されている。このことばは、いきさつ、由来、歴史などを意味し、歴史的発展の出発点を説明し、人または物が登場した後にどうしたかを語るための表現。それゆえこの５章の内容はただことばで伝えられたのではなく、書かれたもの、記録されたもので、口伝のように時間がたつにつれてあいまいに変化していく内容ではないのである。「神の似姿として人を造り」とは1:26でも言われているが、人を永遠の霊を持つ存在、道徳的良心、抽象的に物事を考える能力、美や感情の理解、そして神を礼拝し、神と交わり、神を愛する存在として造るという意味である。人は「土地のちり（アダーマー）」(2:7)から造られたので人（アーダーム）と呼ばれるようになった。日本語ではアダムと訳出。神は人を男と女に創造された。人はその妻の名をエバ(ヘブル語ではハバ)と呼んだ。(3:20)
神は彼らを創造された日に、彼らを祝福された。
[3-5]「アダムは百三十年生きて、彼の似姿として、彼のかたちに男の子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。セツを生んでからのアダムの生涯は八百年で、彼は息子たち、娘たちを生んだ。アダムが生きた全生涯は九百三十年であった。こうして彼は死んだ」
　カインとアベルが生まれて後、アダムが百三十歳の時、セツが生まれた。「彼の似姿として、彼のかたちに」とあるが、これはアダムが神によって造られたときの「神の似姿として」ではなく、彼が罪を犯した後の、罪によってゆがめられた「彼の似姿、彼のかたち」すなわちアダムに入った罪の性質を受け継いだものとしてセツが生まれたのである。セツが生まれるまで長い期間がたっているが、この期間は後のアブラハムとサラの場合のように彼らの祈りと信仰を強めるための神のご計画であったのかもしれない。その後、アダムにはさらに息子たち、娘たちが生まれた。当時の地球環境は今とは違って長く生きることができる理想的な環境であったために、彼は九百三十年も生きることができたが結局は死んだ。これは彼が罪を犯したゆえの神の呪いの実現である。→2:17,3:19　この後の彼の子孫も同様に長寿を誇るが最後は死を迎える。
[6-32]　アダムからノアまでの系図
　ここにはノアの洪水前のアダムからノアまでの系図が記されている。モーセ以前の創世記に名前が出て来る先祖たちは一般に族長と呼ばれている。

族長	誕生年	跡継ぎの族長が生まれた年	死亡年	享年
アダム	１	１３０	９３０	９３０
セツ	１３０	１０５	１０４２	９１２
エノシュ	２３５	９０	１１４０	９０５
ケナン	３２５	７０	１２３５	９１０
マハラルエル	３９５	６５	１２９０	８９５
ヤレデ	４６０	１６２	１４２２	９６２
エノク	６２２	６５	９８７*	３６５
メトシェラ	６８７	１８７	１６５６**	９６９
レメク	８７４	１８２	１６５１	７７７
ノア	１０５６	５００	２００６	９５０ (9:29)

*エノクは死んだのではなく神が彼を取られた。→5:24
**ノアの生涯の600年目の第二の月の十七日に大洪水が起こった。→7:11
　1056(ノアの誕生)＋600(大洪水)＝1656年　この年にメトシェラは死亡した。
これらの系図に省略や欠けたところがないと仮定すれば、創造から大洪水まで全部で1656年ということになる。
族長たちはみな長寿であり、跡継ぎの族長以外に息子、娘たちが多く生まれた。それゆえ、地上には多くの人々が生存していたことであろう。
　エノクについて特筆すべきことは、「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった」(5:24)という出来事であろう。エノクは神を信じる信仰によって、神との親しい交わりを持ち、神に喜ばれていた。→ヘブル11:5　彼は死を見ることのないように神のもとに移された。これは神を認めない世代にとって証しの意味もあったであろう。やがて主イエス・キリストの再臨の時には彼は他の信仰者たちとともに天から下って来るであろう。→Ⅰテサロニケ4:13~17
　ノアについてその父レメクは「この子は、主がのろわれたこの地での、私たちの働きと手の労苦から、私たちを慰めてくれるだろう」(5:29)と言っている。ノアとは「慰め」の意味と思われる。
最初の人アダム以来多くの年月がたち、多くの人が生まれたが、最初の殺人者となった長男カインの子孫（創世記4章）だけでなく、セツの子孫も罪によってゆがめられた性質を受け継ぐ者となり、地上には人の悪が増大していくようになる。→6:5
レメクはこの地が、アダムが罪を犯し、堕落して以来の神がのろわれた世界であることを労苦に満ちた生涯において自覚しており、それゆえ生まれた子に希望を託し、信仰を持ってノアと名づけたのであろう。ノアが五百歳になった時、セム、ハム、ヤフェテが生まれた。(5:32)　彼らは三つ子であったというのではなく彼らのうち誰かが生まれた時、ノアはすでに五百歳になっていたという意味であろう。そして、聖書には書かれていないが、それまでに他の族長たちと同じように、彼に息子や娘たちが生まれていたということも十分考えられる。ノアは主のみこころにかなう正しい人であり(6:8~9)　彼はその長い生涯において人間の堕落と罪の増大と混乱を見て、心を痛め、嘆く者であったであろう。
ここにセム、ハム、ヤフェテの名前だけがあげられている理由は、これらの三人がノアとともに箱舟に入るように選ばれ、洪水後の民族の祖先となる人々だったからである。
　最初に造られた人間アダムの堕落以来、人間の罪の歴史は進んでいくが、神の救いの計画もまた人間の歴史を通して進んで行く。カインの子孫もセツの子孫もアダムの似姿を持つ者として罪の影響は避けられないが、なおそこに慰めと希望が用意されている。
　今日、私たちは神の救いのご計画によって人となって来てくださった神の御子イエス・キリストのことを聖書を通して教えられ、知り、信じる幸いを与えられている。旧約時代の人々が切に望んだ慰めと希望と救いを信仰によって無代価で与えられる時代に生きている。この幸いを、この恵みを私たちは軽んじてはならない。
　アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。
　Ⅰコリント15:22
　私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを無駄に受けないようにしてください。神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。
　Ⅱコリント6:1~2